令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立　　折尾東　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語，算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語，算数）

教科に関する調査（国語、算数）
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に 関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

⑴ 全国・本市の学力調査（国語，算数）の結果

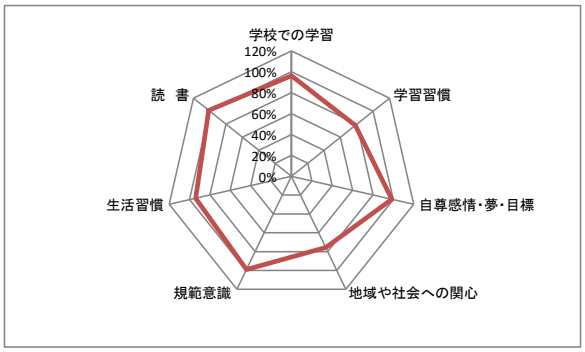
本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

⑵ 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・感染症対策により、表現活動が難しい中、ICTを使った表現活動を工夫して指導してきたが、今年度は正答率は北九州市平均と同じであるが、全国平均を少し下回っている。しかし、表現するという目的意識をもって学習しているので、構成等には気を付けて伝えようという意識は育っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使うことができるかをみる問題では、全国平均を上回る正答率であった。語句に着目して読んだり、話や文章の中で適切に使ったりすることが出来るようになってきていると考える。	
	努力が必要な問題	・書く能力の問題を苦手としている本校の子どもたちである。目的を意識して中心となる語や文を見付けて要約する問題での正答率が低かった。問題の初めの問題文はよく読めているためか、正答率も高いが、後半の問題になると集中力が切れ、正答率も低くなっていると考えられる。最後まで集中して読むという力も育てていきたい。	

算数	全体的な傾向や特徴など	・今年度は正答率は北九州市平均と同じであるが、全体的に全国平均を少し下回っており、続けて努力が必要である。苦手としている説明等を記述する問題については、キーワードを明確に示すことができていないことが課題として残った。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・棒グラフから、項目間の関係や集団のもつ全体的な特徴などを読み取る問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	・複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、面積の求め方と答えを記述する問題の正答率が低かった。また直角三角形の向きがかわると、面積の求め方もあやふやになるようであった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」という質問では、全国平均を上回っている。学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている児童が増えてきていると考える。
・「自分には、よいところがあると思いますか」という質問では、まだまだ肯定的回答は低いが、「夢や目標は持っていますか」や「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問には、肯定的回答が全国平均を上回るか、同じくらいであった。今行っている友だちのよいところを見付ける活動を続けていくことで、自己肯定感・自尊感情が高まっていくと考えられる。
・テレビゲームや携帯等の使用時間は全国平均よりも増えている。使い方について、家の人と約束したことを守っていないという実態も見えてきた。家庭の協力も得ながら、うまくICTに触れ合わせたい。
・新型コロナウイルス感染症拡大で、人と触れ合う活動が制限されているので、地域や社会に参加する意識は低くなっていることは仕方ないと考える。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

①これからも続けて、日々の授業の中で、考え、表現する活動を確保するように努める。
②「読書活動」を奨励する。1単位時間の授業の中に『意見の交流活動』と『書く活動』を意識するようにしていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習について、「折東っ子スタンダード家庭編」に示されている、低学年15分、中学年30分、高学年45分以上の学習習慣が定着するように、学年通信・学校だより等で、引き続き家庭に啓発していく。音読も続けていく。
・毎日朝食を食べる児童の割合が全国平均よりも低いので、家庭の協力も得ていきたい。ゲームをする時間、スマホなどでネットに触れる時間が全国平均よりも多く、携帯等の使い方の約束も守れていない実態が見られるので、保護者に懇談会や学校通信等で啓発していく。